

半田山と霊山

2011年3月11日の着信履歴をみると、九州の友人から「地震ですか、心配ですね」というメールが入っている、時間は15時02分。その日その時、ぼくは大塚駅のホームにいた。福岡行きの飛行機に乗るべく、羽田にむかうところだった。グラッときた。揺れが収まりそうもなく大きいので、思わずホームの柱にしがみついた。しがみつきながら「地震です」と九州の友人にメールを送ったら、返ってきたのがそのメールだった。3・11を忘れることのないように、消さずに残してある。

3・11から早4年、大震災の記憶は少しずつ風化している。風化のスピードが遅いのは、原発事故のおかげかも知れない。風化に多少なりともブレーキをかけられたらいいなと思って、この5月から東北応援隊を立ち上げて、月1回東北の山巡りを考えた。第1回は桑折の半田山と阿武隈の霊山である。5月9日に半田山、10日に霊山に登ってきた。霊山はぼくのお気に入り、で、「ぼくの新日本百名山」にも選定した。朝日文庫で一冊にして貰った『ぼくの新日本百名山』の霊山の項は、「霊山は阿武隈高地にあつて特異な存在である」と書き始めた。阿武隈高地の山々は、可愛らしく登り易い里山である。そんな中で、霊山だけが人目をひく岩山なのだ。春夏秋冬、よく通った。それが3・11と続く原発事故で線量が高く登れなくなった。ようやく線量が低くなって登れるようになったので、東北山巡りの1回目に計画した。

日帰りでは時間が足りない、麓のりょうぜん紅彩館で一泊することにし、1日目は行きがけの駄賃に半田山に登る計画にした。これが大当たり。分県ガイド『福島県の山』をみると、歩行距離6kmで2時間とある。登山口にある半田山管理センターまでタクシーで入り、北コースを登る。山の雰囲気満点のいい山であった。南コースを下ると、下り切ったあたりがシラネアオイの大群落になっていた。2日目の霊山は、もちろん文句なし。峨々たる岩山に遊歩道と呼んでもいいくらいの、良く整備された道が巡っているのでファミリーでも安心して歩ける。下って紅彩館の湯舟に汗を流せば、ビールの旨さは格別だ。

2回目の6月は、岩崎認定五つ星の山小屋、吾妻小舎に泊まって一切経山に登る計画を立て、福島駅から浄土平に上がるバス時刻を確認のため、バス会社に電話したら火山性ガスの影響でバスは上がっていないとのこと。箱根もだめ、蔵王もだめ、近いうちに日本中の火山は立ち入り禁止になりそうだ。

吾妻小舎は、故遠藤守雄さんが奥さまの雅子さんと管理していた山小屋で、真っ白フカフカのお布団が忘れられない。もう一度泊まって遠藤さんを偲びたいと思っていたので、2回目は迷うことなく一切経山にきめたのだが、アプローチできないとなると、別の山を考えなければならない。さあて、どこにするか頭が爆発しそうである。